

草の根技術協力事業（パートナー型）

ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト

2019 年度本邦研修報告書



2019年10月

国立大学法人金沢大学

人間社会研究域附属 国際文化資源学研究センター

（プロジェクトマネージャー：中村誠一）

目次

1	研修概要	1
1-1	研修の背景と目的	1
1-2	日時・場所	1
1-3	参加者	1
1-4	目標と方法	2
1-5	実施体制及び運営	3
1-6	宿泊施設	3
1-7	その他のプログラム	4
1-8	評価方法	4
2	研修内容	5
2-1	所属コミュニティ/組織の現状と課題の共有	5
2-2	金沢市についてー概要および観光政策ー	6
2-3	金沢職人大学校の講義と視察	8
2-4	エルサルバドルのパブリック考古学	9
2-5	高山についての講義と視察	9
2-6	白川郷についての講義と視察	10
2-7	グループワーク	12
3	アクションプラン発表会	13
3-1	アクションプラン発表会の概要	13
3-2	イシュルのコミュニティ	13
3-3	グアテマラ観光庁	13
3-4	ティカル国立公園	14
3-5	グアテマラ職業訓練校	14
3-6	ホンジュラス国立人類学歴史研究所	14

1 研修概要

1-1 研修の背景と目的

『ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト』には、主に 2 つの目的がある。ティカル国立公園の周辺コミュニティの住民の生活の質を向上させ、世界遺産を活用することについて意識向上を行うこと、さらに活動を長期的に持続して行うため、住民が政府・自治体等の関連機関と連携した活動を行うことを目的としている。これらの目的のために、コミュニティの中で信頼関係を築くことのできるリーダー層の人材育成を行うこと、コミュニティの組織化と関連機関とのネットワーク形成を行うことが不可欠である。

今回研修を実施する石川県・岐阜県には、金沢城、兼六園、世界遺産の白川郷のように、自然・歴史・文化を観光に活用している例が多々見受けられる。本邦研修では、まちづくりにおいて地元の観光資源を適切に活用しているこれらの場所を視察する機会があり、関連講義にて、それぞれの分野の専門家により、視察を効果的に行うための教育を受ける。最後に得られた知識をそれぞれの所属先やコミュニティの現状に適応するため、共働で問題解決のためのグループワークが実施される。

1-2 日時・場所

○日時

2019年10月6日（日）～令和元年10月18日（金）（13日間）

※10月4日現地発、10月20日現地着

○場所

石川県金沢市・岐阜県高山市・岐阜県白川村

1-3 参加者

グアテマラからの参加者 6 名と、金沢大学の特別参加者としてホンジュラス国立人類学歴史学研究所(IHAH)1 名が参加した。

1-4 目標と方法

(1) 所属コミュニティ/組織の現状と課題の共有	
<p>所属コミュニティ/組織に関する報告 パワーポイントによるプレゼンテーション</p>	<p>1. 所属コミュニティ/組織に関する報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの代表である場合、地理、人口、教育、経済等の情報を加えること。 ・現在進行中の社会開発計画、プロジェクトについて ・現在の社会状況、直面している課題と問題点について ・研修に参加する組織(ティカル国立公園およびJICAを含む)と共働できると思われる側面について ・本邦研修へ期待していることについて <p>2. パワーポイントによるプレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1に従い、10月8日にコミュニティ/所属組織に関する20分間のパワーポイントのプレゼンテーションを準備する。10月8日に発表を行った。プレゼンテーションでは視覚に訴える物、例えば写真や統計データ等が含まれている。

(2) 2019年度 本邦研修		
期待される成果	事例	メソッド
日本の文化遺産の保存と活用法、地域や自然との調和的発展の方策について学ぶ。	石川県金沢市、岐阜県高山市、白川村の世界遺産、文化遺産で周辺村落・地域の開発に結びついている事例と関係する施設	講義 視察 グループワーク
文化は地域開発の資源であるという観点から、自国の実情にあった資源の管理運営法、地域住民の生活向上につながる活用法を提案することができる。	アクションプラン 自国の実情にあった地域開発計画/所属機関の発展計画の提案	討論 グループワーク

(3)事後活動	
アクションプランの共有 進捗状況報告書の提出	1. 関係者とのアクションプランの共有 2. アクションプラン進捗状況報告書の提出。

ア. 使用言語

スペイン語（スペイン語⇔日本語通訳を株式会社エルセクレタリーが行った）

イ. 講義及び実習

研修は、概ね午前 2 時間、午後 3 時間 30 分(午前 9:30～11:30、午後 13:00～16:30)とし、金沢大学を主たる実施場所として研修を行った。

ウ. 視察

諸理論及び学習した事例の理解を深めるため、講義やディスカッションで学習したことに関連する場所/施設を訪問した。

1-5 実施体制及び運営

本研修は、金沢大学が、JICA北陸/JICAグアテマラ事務所と協力し、実施された。研修の効果的運営のため、研修監理業務を行う研修監理員 1 名が配置された。

1-6 宿泊施設

- ・ R & B ホテル金沢駅西口

住所:〒920-0031 石川県金沢市広岡 1-3-31

TEL: +81 076-224-8080 / FAX: 076-224-8082

- ・ ホテルエコノ金沢駅前

住所:〒920-0852 石川県金沢市此花町 8-8

TEL:076-223-2600

・カントリーホテル高山

住所:〒506-0026 岐阜県高山市花里町6丁目38

TEL: +81 577-35-3900

1-7 その他のプログラム

(1) 研修担当者によるオリエンテーション

研修目標、内容などの基礎的な理解のため、プロジェクトマネージャー、JICA グアテマラにより、研修員に事前講義が行われた。滞在における注意点も説明された。

(2) 金沢大学学長への表敬訪問

(3) 開講式

(4) 閉講式

最終評価会の終了後に閉講式を開催し、研修を終了した各研修員に対し修了証書 (Certificate) が授与された。

1-8 評価方法

(1) 評価の目的

実施状況を明確に把握するとともに、研修の目標と成果を比較し、改善すべき点について検討する。

(2) 評価の方法

最終評価会 (研修日程終了日) にて、研修員は研修効果、研修内容の自国での適用性等に関するアクションプランの発表を行った。

本評価会は、金沢大学および J I C A 北陸の職員の前で開催され、金沢大学の大学院生も出席した。研修員の帰国後、各評価会での討議内容、JICA が規定するアンケートと研修監理員による報告書に応じ、金沢大学と JICA グアテマラによる反省会がペテンにて行われる。

2. 研修内容

2-1 所属コミュニティ/組織の現状と課題の共有

10月8日に研修生によって、ティカル国立公園の観光回廊の開発に関して各々が所属するコミュニティと組織の現状と直面している問題が共有された。質疑応答がそれぞれのプレゼンテーションの後に続き、すべての参加者が互いの状況について自分の視点を述べるディスカッションが行われた。

イングリ・フランシスカ・モラレス・ヒメネス氏は最初に発表し、彼女が代表するコミュニティのイシュルの状況を説明した。彼女はイシュルが所有する、地方自治体に無視されておりほとんど観光客に宣伝されない考古学的、自然、文化、美食の遺産についてプレゼンテーションを行った。彼女のプレゼンテーションと質疑応答に続き、ディスカッションではイシュル独自の製品を商品化して、観光名所として宣伝できる場所の宣伝戦略を確立しようとする解決方法が考えられた。

次に、観光の政治を実施する政府機関であるグアテマラ観光庁(INGUAT)を代表するホセ・フランシスコ・カノ・オサエタ氏は、彼は専門分野である観光の安全性に関連する現状と問題を提示した。安全な観光に基づく地域経済の発展という課題に取り組むために、関係する様々な組織の間での共働の必要性に焦点を当てた。

グアテマラ職業訓練校(INTECAP)を代表するカルロス・アビガイル・ゴンサレス・ゴンサレス氏は、機関の概要と農村部での技術教育の提供がもたらす問題について説明した。プレゼンテーションでは、訓練を受けた人員の不足と必要な機器の不足、また、地域の人々の教育に対する関心の欠如が取り上げられた。

クリステル・ミシェル・ピネダ・オレジャーナ氏は、ティカル国立公園が所有する自然の保護に関する活動について発表した。彼女は、水、大気汚染、さまざまな保護種の個体数を監視するために公園が行っている活動を説明した。自然保護を行うことが、持続可能な観光開発に繋がることを出席者に啓蒙した。

ホンジュラスの唯一の代表であるホンジュラス国立人類学歴史研究所(IHAH)代表のクリスティアン・ナポレオン・アギラール・ニエト氏は、研究所によって保護された自然、文化、考古学遺産に関するプレゼンテーションを行った。研究所が海外の機関と協力して実施した保全と社会開発のプロジェクトについて説明した。ホンジュラス国立人類学歴史研究所は、コパン周辺のマヤ遺跡のプロジェクトで金沢大学、JICAと協力を行ってきた。

2-2 金沢市について－概要および観光政策－

金沢市が、どのように文化資源を活用し、地元の観光振興を行っているかその方法を学ぶため、金沢市についての講義と視察訪問が行われた。金沢市観光政策課による観光政策と現状に関する講義を受講した後、金沢市内の各所を訪問することにより、講義にて取得した理論的知識が補完された。

金沢市の観光開発に関する講義では、市が観光旅行を誘致するために取った調査と計画に焦点を当てられ、海外および日本国内の訪問者数の統計、出身国に応じた訪問者数の分布、新しい戦略が採用されてからどれほど訪問者が増加したかということが示された。金沢市の政策である、効率的な計画、効果的な広告キャンペーン、充実した観光案内所を中心に、金沢のような都市が観光で今後どのように成長できるかを研修生は学んだ。



金沢市役所観光政策課の小川晶子氏による講義

金沢城公園と兼六園の視察では、金沢城と兼六園の歴史やその構造、植生の保護についての説明を受けた。石川県立伝統産業工芸館、石川県立歴史博物館などの博物館施設では、資料の効果的な展示方法や保存、海外からの観光客対応などについて観察し、学習した。体験コーナーでは、来館者に見るだけでなく実際に展示内に参加して楽しむことができる参加型の展示方法を体感した。



兼六園にて兼六園事務所の浜田哲郎氏の説明を聞く研修生一同



石川県立歴史博物館の体験コーナーにて武士と姫の衣装を試着する研修生

ひがし茶屋街、長町武家屋敷界限、にし茶屋街では、ボランティアガイド「まいどさん」による案内を受けた。まちの景観保護や観光戦略、観光ルート、またガイドの組織・教育について説明を受けた。日本の伝統的な景観を持つまちの観光客という立場に研修生自ら立ちながら、研修生たちが保護・管理し、居住する地域の観光地の観光ルートやガイドの体制を見直す機会となった。



まいどさんのガイドを受けたひがし茶屋街の視察

金沢市の郊外に位置する大野にて地元の特産品を使ったまちおこしの様子を視察した。大和醤油味噌糍パークでは実際に製造工程を見学するアクティビティを体験し、商品を販売する併設店も視察した。見学や試食は、施設を楽しんでもらうだけではなく、顧客の購買意欲の向上になることを学んだ。研修生の何人かは、そうした販売戦略をアクションプランに投影した。

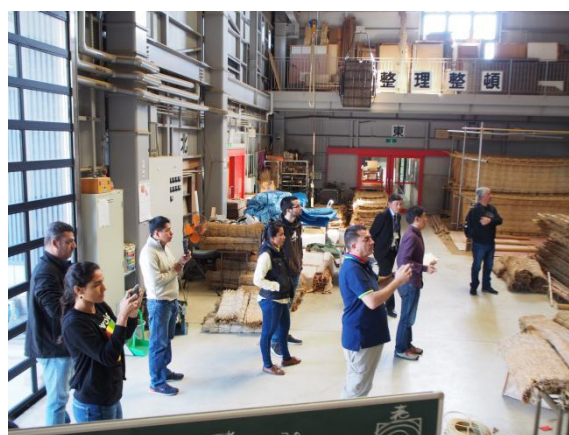


大和醤油味噌糍パークの販売員による商品の説明

2-3 金沢職人大学校の講義と視察

金沢職人大学校にて、事務所長である淵吉忠氏より施設の説明を受けた。職人の仕事が必要となる保存地区を有する都市の中で、このような教育機関の持つ役割について学んだ。

大工、畳、瓦、左官、木材、竹、紙、板金の加工等、職人の技術を訓練する実際の場を訪問し、職業訓練が金沢市でどのように行われているか見学した。



金沢職人大学校の視察における淵吉忠氏による説明

2-4 エルサルバドルのパブリック考古学

京都府京都文化博物館の村野正景氏による、エルサルバドルのパブリック考古学の現状について講義を受けた。主にコミュニティデザイン、伝統工芸、文化的景観、考古学の相互関係について、グアテマラやホンジュラスに似た国で、これらの要素がどのように活用されているかを学んだ。

講義では、中南米でパブリック考古学が直面する問題と、教育的、政治的観点から講師が提示した解決策が説明された。研修生は、教育制度やグアテマラの政策立案者達の間での連携の欠如が、社会開発に関する主要な問題の1つであるということを再認識した。質疑応答では、この意見を共有し、エルサルバドルとグアテマラの考古学公園の状況の類似性を指摘した。この講義の出席者には、中南米から留学してきた金沢大学の学生2名が聴講し、講義後に行われた議論にも参加した。



京都府京都文化博物館の村野正景氏による講義

2-5 高山についての講義と視察

江戸時代から残る城下町を生かした景観で、国内外問わず観光客の多い高山市にて、講義・視察を実施した。

最初に高山市役所海外戦略課の畑尻広昌氏より、高山市のインバウンド政策について講義を受けた。文化的、歴史的、美食の観光資源を持つ高山市の、まちづくりや観光客の誘致方法について学んだ。また、講義では、高山市の人口減少と経済成長の統計による予想が説明された。日本において地方自治体が対策すべき課題について述べられ、観光戦略から人口の減少などの問題に対する計画について紹介された。



高山市役所海外戦略課の畑尻広昌氏による講義

高山市内の視察では、陣屋と古いまちなみを訪問した。研修生たちは金沢市とは違った立地条件、歴史等を有する地方のまちづくりや観光のルート、それに対応するガイドの手法などを観察した。また、朝市訪問では住民たちによる地元の特産品の販売を見学し、売り出し方についても学ぶことができた。



高山陣屋のガイドによる説明

2-6 白川郷についての講義と視察

有形文化財・無形文化財をともに有し、世界遺産に登録されている白川郷を視察することで、それらの両方を活用した村づくりを学んだ。

事前講義では、住民として白川村で暮らし、観光政策を執り行う立場である白川村観光振興課の尾崎達也氏により、文化遺産の保護や活用方法について講義を受けた。白川村が山中の一村からどのように成長し、いかにして大勢の人々を日本に訪れさせる観光名所の一つになったかという点に焦点が当てられた。

特定の観光客層をターゲットに開発された広告キャンペーンについても取り扱い、ソーシャルネットワークを介した投稿、出版物、ビデオ、マルチメディアプレゼンテーションなどが紹介された。また尾崎氏より、ソーシャルネットワークの活用によるマーケティング調査についての説明も行われた。



白川村観光振興課の尾崎達也氏による講義

白川郷の視察では、初めに白川郷道の駅に立ち寄った。研修生たちは、主要な合掌造りの集落を実際に見る前の道路に位置する道の駅の立地や、合掌造りの製造工程を見ることができる合掌ミュージアムと併設されていることから、ティカル国立公園の観光回廊にあるコミュニティの位置の類似性と活用方法を考えた。荻町展望台においても、観光ルートの整備と景観の活用についてティカル国立公園の周辺回廊にあるコミュニティの見本として観察することができた。



白川郷道の駅の視察

住民が生活しており、一般公開されている合掌造りの家、和田家では住民の生活と観光のバランスについて研修生たちは考えた。またその後、白川村について講義を行った尾崎氏の案内を受け、どぶろく祭りに参加した。伝統的な祭りの運営や、祭の中での住民達と観光客の交流の様子を見て、観光地での観光政策と住民の暮らしの両立について学んだ。



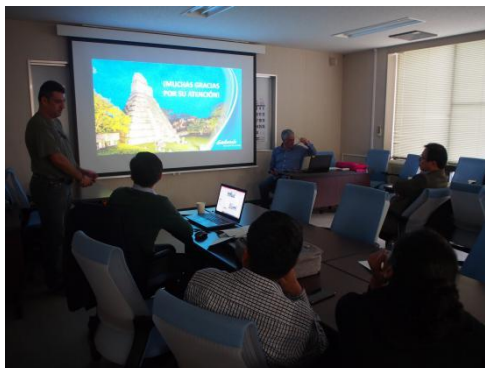
どぶろく祭りを体験する研修生

2-7 グループワーク

高山・白川郷の研修旅行で学習したことについてふりかえり、共有するため、議論と発表をおこなった。また、アクションプラン発表会に向けグループワークを行い、連携と各々が提案する計画の相互補完を目指した。



高山・白川郷での学習を報告するイングリ・モラレス氏



それぞれが計画したアクションプランの見直しを行う様子

3. アクションプラン発表会

3-1 アクションプラン発表会の概要

研修を通して得られた知識をそれぞれが所属するコミュニティ/組織にの現状に適応するため、共働で問題解決のためアクションプランを計画した。これらの計画は、研修最終日の10月18日に研修生により発表された。11月7日にグアテマラ、フローレスにて関係者にアクションプランが共有される。



イングリ・モラレス氏によるアクションプランの発表

3-2 イシュルのコミュニティ

イシュルのコミュニティに所属するイングリ・モラレス氏は、コミュニティが忘れかけている自然の観光名所の1つであるサルペテン湖の復旧・再活用や、放棄された状態にある考古学公園の活性化を通して、経済成長をもたらすことが見込まれるアクションプランを計画した。観光客向けの案内情報の充実化、遊歩道への案内板の設置、森林破壊がなされた地域に植樹するキャンペーン等を提案した。

3-3 グアテマラ観光庁

グアテマラ観光庁に所属するフランシスコ・カノ氏は、ティカル国立公園への観光回廊に位置するエル・カオバにて、観光客向けの展望台の改装を行うアクションプランを計画した。白川郷荻町の城址における展望台から観光ルートの着想を得て、エル・カオバに反映させる計画を発表した。

3-4 ティカル国立公園

ティカル国立公園のクリステル・ピネダ氏は、工芸品が軽視されているコミュニティでの職人向けのワークショップを通して、ティカルを訪れる観光客が足を運べる観光ツアーを確立することに目を向けた。ヤマト醤油味噌の販売戦略を参考に、観光客に製造工程を見てもらった後に、完成品を手にとってもらうアクティビティを構想した。

3-5 グアテマラ職業訓練校

カルロス・ゴンサレス氏は、イシュルのアクションプランを補完する計画を立案した。本邦研修での視察先において、常にパンフレットなど観光客が必要な情報が取り揃えられていたことを参考に、そのような観光情報を作成できるように人々を訓練するというアイデアを中心とするアクションプランを計画した。

3-6 ホンジュラス国立人類学歴史研究所

ホンジュラス国立人類学歴史学研究所のクリスティアン・アギラール氏は、世界遺産のコパンのマヤ遺跡周辺のコミュニティの教育に関するアクションプランを提案した。世界遺産が持つ価値について、意識を高める観点を強く主張した。彼らが所有する考古学公園の重要性を教育することで、地域住民が公園を観光に効果的に活用することができると発表した。